

若手技術者へ贈る言葉

学会活動は研鑽の場



熊倉賢一

齢 75 歳の私には今年の夏は耐え難いほど厳しい、地球温暖化による異常気象更には新型コロナウイルスが世界中の多くの高齢者の命を奪い続け、3 年が過ぎても終息の見えない状況にある。まるで人類に何か大きな警告を発しているかのようである。

この厳しい中、多くの人々と関わり、新製品・新技術の開発に邁進する私、仕事が趣味とまで言われる私、事業の経営に携わる私、未だその先を目指して我武者羅に突進する私、イノシシ年の私。

そんな私から若い技術者・研究者の皆様にも多少なりとも参考にして頂ければ、少なくとも反面教師的な役割程度は果せるかも知れないと考え、本稿執筆をお引受させていただきました。

株式会社クマクラは部品加工(精密金属部品加工)屋としてスタート、治工具、ユニット、専用機械装置、自社開発製品と業態を変化しながら本年度 51 期になります。

私が本学会に入会させて頂いた時期は精密部品加工で研削・研磨・ラップなどの技術的課題を抱えて困っていた時期でした。きっかけはある先生の勧めでした。「学会の一つぐらい入らないで企業として情けない話ですね！」紹介者の先生のお言葉でした。この言葉は私を目覚めさせました。モノづくりを生業にしながら職人的な技能者だけの社員で事業をしていた時期です。社員個人の技能が会社の価値で、その職人が退社するとその仕事はできなくなることに気づいたのです。クマクラの技術はその個人のもので会社のものではないことに気づいたのです。経営者としては心配事で、その人間が退社すれば、その仕事はできないことになるのです。そこで仕事(技能)を理論としてデータベース化すべきと考えました。理論武装です。学会は専門分野の技術を理論化するところで、私には入会は必然だったのです。加工屋であるクマクラは研削・研磨の加工技術を理論武装することが会社として重要なことに気づいたのです。

学会は敷居が高いとか、難しいことを勉強する、させられるとか言われていますが、とんでもないことです。中小企業にとっては経営戦略の中に組み込まれるべき戦略の一つと考えます。

私は入会と同時に企画委員に選任されました。右も左もわからない私が企画委員会の一員として推薦し

ていただいた先生には今でも感謝です。一会員として会費を払い研究会・見学会・講習会に参加していればよいわけですが、どんな会でも入会したら、会の運営の方に回れば一般会員とは違ってきます。何かの役を仰せつかれば、大きな違いが起こります。委員会は企業側と学側の人間で構成されますから、人的交流の場に参加でき人脈の形成にもなります。委員会の進め方や計画したことの運営にも携わることで、職場以外の作業が経験できます。会合の後の会食はお互いを知りあう絶好の機会になります。産学連携そのものが日常化されます。私にとって役員に選任されたことで学会は勉強の場であり、人脈形成の場でありネタ探しの場であり、社員の教育の場であり、営業の場でもありました。

若い技術者・研究者の皆様にお伝えしたい大事なことは、学会に入会したら学会の中に積極的に入り込み、人的交流の場として大いに活用していただきたいと言いたいのです。他流試合のできる最高の環境があります。

私は現在顧問の立場にありますが、理事、ATF 実行委員長、ABTEC 実行委員、賛助会運営委員、賛助会会長、企画委員、次世代固定砥粒加工プロセス専門委員会運営委員など多くの経験をしました。私が役員を務めたなかから、賛助会会長と次世代固定砥粒加工プロセス専門委員会運営委員の経験から頂いた思い出の一部分をお話します。

砥粒加工学会のメンバーは、時代時代のモノづくり現場、とくに精密加工の現場に関係する方々、大学・研究機関の先生・企業にいて研究開発に携わる方・そして企業経営をされる方などからなります。

会員規模は全体で 1500 個人団体数ですが、他学会に比べ比較的小規模となります。

賛助会は法人会員のことをいいます。会員数は全体の約 10% 強の 180 社程度になります。

従って、180 社の法人会員は所属する企業の社員が、全員会員資格があることとなります。

学会の規模が小さいことは、ある面フレキシビリティな部分がありますから、常時さまざまな企画が成され、会員の皆様が自由参加できる環境にあることで、会員

相互の壁を全く感じない雰囲気で開催されています。

賛助会の企画もいろいろございますが、毎年春に行われる先進テクノフェア(アドバンステクノフェア)略称 ATF と言いますが、大学の先生も加わっていただきで実行委員会を組織して準備をします。

その時代時代に求められる興味深い技術的課題などをテーマに5件の講演会と学生の卒業研究発表展示会、これから社会人として飛び立つ学生を迎えて、賛助会企業からの会社の特徴・先進的技術の紹介をするコーナーもございます。

本学会は現場で抱えるさまざまな課題を実務と理論との摺り合わせの場として、正に産学連携そのものであり、産学・学連携を実践している学会と言えます。今後は官との連携を図り産業界全体の活性のために前進していこうと考えています。

そのためにも技術への絶えまぬ innovation を意識する仲間に入会頂き、賛助会の活性を図ることが最も重要かと考えております。是非本学会のホームページをクリックして頂き、何らかのイベント企画にご参加ください。

元気な企業・元気な人が沢山お待ちしております。きっと何かが変わります。

賛助会の存在が極めて重要かと考えます。賛助会は法人会員で組織され会長以下数名の委員により企業会員に有効な行事を企画し運営します。歴代の会長は旧東芝機械の田中様をはじめ立派な技術者が就任されました。私のような中小企業の無名の人間が選任させることは過去に例のないことでした。この時の学会長は田島さま(マルトー)で同じく中小企業の経営者でした。田島氏は学会の活性化を念頭に置いた運営を賛助会の私に指示しました。賛助会が活発に活動することこそが本学会のあるべき姿であると私も同じ思いでした。運営委員の皆様の実直な議論が今でも懐かしく思い出されます。

賛助会には女性の委員も誕生し、かつてないほどの盛り上がりを感じました。現在もその活動は変わらず引き継がれていて、私はアドバイザーとして次世固定砥粒加工プロセス専門委員会(SF 専門委員会)に在籍させていただいております。

この委員会では立ち上げの時から運営委員を仰せつかり、昨年は100回記念を対面方式で行いました。運営委員をお引受してからは、固定砥粒を勉強する機会を頂きました。

この会の運営委員はすごい人ばかりで、初代の委員長は安永先生、二代目は池野先生そして現在三

代目が山田先生です。運営委員のメンバーも多彩で、その人的交流は弊社の技術を進化させた大きな源であったと確信します。今までの企画委員会・理事会・ATF 実行委員会と経験しましたがそれぞれ委員長のカラーが出てそれぞれに味のある委員会に良い勉強をしました。次世代固定砥粒加工プロセス委員会(SF)は半年先まで企画を検討し決めていくやり方で、かなり厳しい委員会でしたが委員の皆様のご熱意と委員長の指導にて継続しています。私はかなりきつuitと感じていました。同じ思いの委員は私だけではないと思います。

若手技術者の皆様にも是非とも運営に加わりこの勢いを肌で感じて欲しいと心底から思います。



SF 専門委員会



学会総会贈賞式



学術講演会贈与式【ABTEC2015】

くまくら・けんいち:株式会社クマクラ 会長